

令和7年度 青葉区在宅医療連携拠点 第1回 事例検討会
「引きこもりの娘と暮らす利用者への支援を考える」グループワークご意見まとめ

令和7年5月29日(木) 10:00~11:30 青葉公会堂2階会議室

1. グループワーク ① この事例をどう捉えるのか。それぞれの受け止め方、考え方を話し合う。

- ・よくあるケース。もやもやする。50代の引きこもりが問題になっている。
- ・今打てる手としては難しい。サービスが入っており、サインがあれば見逃さずに早めに対応する。
- ・サービスを継続することで、いつでもサポートできるというメッセージになる。
- ・ケアマネに思いを伝えられることは良い事だと思う。
- ・母親の気持ち(今後母親に何かあったら長女がどうなるのか)、長女の気持ち(長女の気持ちを聞く場はあるのか。医療に繋がっていないが繋がられないか。障害制度での支援が可能か?)をそれぞれどうとらえていくか。本人や家族の真意が見えてこない。知りたい。
- ・医師の話を聞いてくれるのではないか。
- ・長男・次女は逃げ腰では?誰から、どう働きかけるのが良いのか?
- ・本人、長女を分けて別々に考える必要がある。本人に対しては、訴えられる場所、包括とも連携していく必要がある。長女への対応は難しい。引きこもりのきっかけを知ること。カウンセリングや受診に繋げることが必要だが、どうつなげればいいのか。
- ・本人はしっかりしているが、世帯単位で捉えてはどうか。長男・長女の連絡先を確認するなどの対応を。
- ・共有の物の買い物についても、世帯として捉える必要がある。
- ・行政や包括がどういった関りをケアマネに望んでいるのか、方向性を確認して対応する必要がある。求められることが何かははっきりした方が良い。
- ・引きこもりの家庭には、公の機関に対するあきらめもあるのではないか。

2. グループワーク ② 今後予想されること、注意すべきことについて話し合う。

- ・母親の支援が娘の支援に繋がると良い。
- ・長女の孤立が虐待を生んでいるのではないか。
- ・正攻法で行ってもなかなか難しい。今後の変化に対応していく。
- ・KPである長男の負担が大きくなり支援が必要になる可能性がある。今のうちから長男と連絡を取っておく。長男との連絡は誰がすると良いのか。
- ・本人のADL低下に伴い、暴力のエスカレートが懸念される。
- ・本人や長女を責めるのではなく、周囲に協力を求めることが出来ることを伝えていく。
- ・長女は話を聞いているかもしれない。長女にあいさつしたい、話したい、と訪問時に本人に話す。
- ・本人の介護が増えた時、デイの休みやヘルパーの気づきがあった時など、すぐに連絡を取り合い対応するネットワークを作っておく。
- ・本人の緊急避難場所を確保しておく。
- ・長男は入院時に長女をサポートしていた。長男とチームを組んでアプローチできるのではないか。
- ・ケアマネとしては、あまり積極的に出ると断られる可能性もある。ケアマネは敵ではないという安心感を伝えていく。常にだれかが見守っている、何かの時はSOSが出せることが伝えられる。